

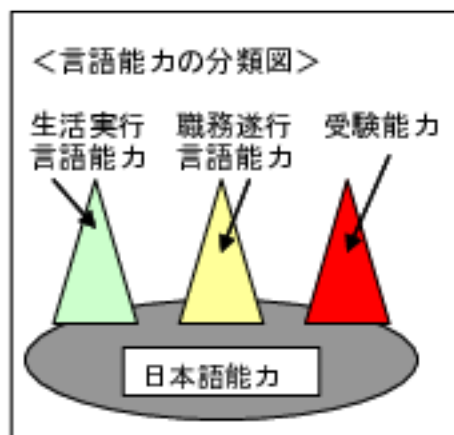
外国人介護福祉士候補者の

【国試対策情報】

月報 第11号

試験問題を読めない・解けない受験生の傾向

1、下図を見て、どう思いますか。 <言語能力と受験能力との関係>



① まだ分かっていない「合格に必要な言語能力」の重要性

日本人が国家試験を受験するとしても左図のように、言葉を使う領域が異なっています。高校三年を卒業しただけでは国家試験合格は難しいために、専門学校で専門知識を習得して、一応の国家試験対策の勉強をしてから、受験するのが多くの日本人受験者の道です。

このことを考えると、外国人が国家試験を受験して合格するためには、日本人受験者と同じ位の日本語能力が無ければ、合格は非常に難しいことでしょう。

しかし、今だに日本人関係者の中では、「基盤となる日本語能力」と「受験能力」の関係を無視して、外国人である受験者に対して、受験能力だけを求める矛盾した考え方が多数あります。

そして、【日本語能力は小学生レベルで、国家試験を受験させる状態】が、全国で起こっています。この状態で国試対策を行っても、何も意味が無いことが明白です。

② 過去問題だけの学習は言語能力を阻害する

外国人受験者に対して、過去問題集を基にした国家試験対策を、事業団をはじめ各施設での日本語教育指導者などが行っていますが、今年の3月に発表された合格者数(受験者数 95 名中合格者数 36 名)を見れば、非常に低い合格率にとどまっています。このことは、「過去1年間の国家試験対策の過ちを、また再び犯すのか」という思いがしませんか。

この最大の原因は、言語能力を無視した、知識の選択技術だけの学習方法をとったからです。

③ マークシート解答でも絶対必要な「読解力」

受験者にとって質問文と選択文の文意が読み取れないことは、例え、マークシート方式で記号選択でも、正しい答えを導き出すことができません。誰もが見ても当たり前のことです。結果的に、読み取れない受験者は「山勘で記号を選択」することになり、当然、合格の確率が落ちるものです。

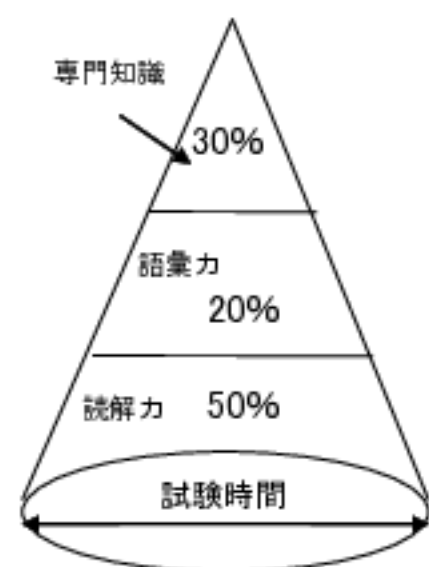
④ 試験時間内で答えられる「瞬時の反応能力」は、最低限の必要な能力

厚労省は、「試験問題に出る漢字に対して振り仮名を振ること」と「試験時間の延長」を決定しましたが、このことは、前回の外国人候補者の合格率があまりにも低いことを認めた結果としての処置です。その最大の原因は、受験者が試験時間内に答えられないということです。一般的な学習方法が「瞬時の反応能力」を無視した「過去問題に対するテクニック学習」を中心に、約2年間も費やしたことはあまりにも、ばかげた学習方法と言えます。

上図の「言語能力の分類図」に基づいた学習方法の考え方で、日本語教育を行えば、日本人と同等程度の能力を養うことができます。詳細は次のページです。

2、国家試験合格に結びつける能力とは？

● 解答能力の比率



★ 絶対必要「瞬時反応能力」

① 「試験時間内で全問解答」できる能力を養う

決められた試験時間で、全問に対して答えられないことは不合格を表します。「瞬時反応能力」がなく、仮に60%の解答が全て正解であったとしても、確実な合格にはとどきません。そのため、時間内で全てに解答できる「瞬時反応能力」が必要なのです。

② 「試験問題の読解と選択文の読解」ができる力を養う

選択文の中から、正解文だけを選び出す練習だけをしている受験者が多くいますが、質問文や選択文の理解とは関係なく、これは受験テクニックの学習にしか過ぎません。そのために、「合格への道」とは遠く離れた勉強をしていることがお分かりでしょう。

③ 「専門用語の語彙理解」を日本語で養う

専門用語は、漢字熟語で表されており、試験では振り仮名が振られたとしても、その意味が理解できていなければ正解文を選び出すことはできません。

専門用語の意味は、日本語で理解してこそ、質問文と選択文の読解に必要な力となります。

④ 「正しい専門知識」を日本語で習得

介護現場で行われる介助知識やそれらに必要な知識は、できるだけ現場で体得することが、外国人の受験者にとっては一番分かりやすい方法だと思いませんか。

即ち、実践に必要な介護技術問題を過去問題から数例取り出して、現場で過去問題を「音読」しながら、正しい技術を計画的に、そして、継続的に行うことで、過去問題の実践編はほぼ、職域内で業務として体得できるようにすれば、別途に改めて机上での試験対策をする必要がなくなります。

但し、必ず実践問題を体得させたら、その過去問題を「音読」しなければ、問題に対する意識と問題の位置づけが不明瞭になってしまいますので、このことは最も重要視しなければいけません。

⑤ 試験対策テクニックにこだわらない。

試験問題の出し方では「正しいもの」「最も適切なもの」や「適切でないもの」などの文字が太文字で書かれており、受験者にすぐ気づくように書かれていますが、質問文の読解ができな限り、正しい解答文を選択文から選び出すことは当然できません。

当たり前のことながら、質問文の「読解力」があってこそ、太文字書きされている「文意判断語」の果たす意味が出てくるものです。そのことに気づかず、選択文の中から例えば、「正しくないものを一つ選べ」とあった場合には、専ら、正しくないもの探しをする受験対策では、受験者にとって何の価値もない学習にしか過ぎません。

受験者にとっては、「受験勉強をする過程の中において、日本の介護知識を習得する」ことが本来の目的であるはずですが、仮に、合格できなくても、正しい介護知識を身につけることによって、施設の中での業務がより円滑に進める能力を身につけさせることが、重要ではないでしょうか。

「国家試験受験能力到達度試験」を受験している施設からの報告

＜東京都・N施設からの報告＞

今年5月に初めて、「国家試験受験能力到達度試験」を受験し、最初は30%台だった。このことは、今までの学習効果があまりにも低かったと認めざるを得なかった。しかし、学習方法を考察票通りに改めた結果、1ヵ月後の6月には、60%台と70%台後半の言語能力まで一気に伸びた。受験者自身が日本語の難しさや、国家試験問題を読み解くための読解力の重要性がこの試験を通じて分かったようで、自ら進んで考察票に基づいて学習をするようになった。

＜滋賀県・F施設からの報告＞

入職当初から「国家試験受験能力到達度試験」を受験し、「国家試験の受験能力」を着実にそして、計画的に養ってきた。考察票通りに、施設職員が学習指導をしてきた結果、現在、レベルE試験まで終えた段階で、すでに国家試験の合格ラインに達していることが今までの数値でよく分かった。今は、国家試験問題や参考書を時間を計って、「音読練習」をしながら、本番の試験に向けて、順調に対策を進めている。

＜愛知県・S施設＞

国家試験対策をしてきたが、日本人と同じ試験を受験したところ、半分以下の結果だったので衝撃を受けた。漢字が読めなくて解けないのか、読解ができないのか、日本語が理解できないのか、原因が分からず学習を進めていたが、「国家試験受験能力到達度試験」を受験することで、どの能力が弱いのかよく分かり対策も指導しやすくなっている。読解力を上げるために、考察票に基づいて「読み練習」を中心にしている。

＜施設の声＞

- 1、「試験」と聞くだけで受験者が構えてしまう。毎回、事業団の試験は受けているが、日本人と同じ国家試験問題を解かせると、難しくて解けない状況。しかし、担当している日本語の先生は、施設の意向を無視して改善することなく現状のままで進めているために、能力も伸びていない。ちなみに外部のテストをやらせてみた結果、あまり出来が良くなく、担当の先生はそれを施設職員にも公表することを避けて、自分の教育をした結果が表れることを嫌がっているようだ。（神奈川県・G施設）
- 2、国家試験対策をしているが、順調に進んでいるとは言えない。月報も参考にしているので、「読解力」の大切さはよく分かる。事業団が行っている模擬試験はレベルが低い問題なので、能力を判断する上では参考にはならない。そのため、日本人と同じ問題や参考書を使って指導はしているが、正直、正規の合格は難しいと感じているので、せめて、合格水準点に少しでも近づける点数が取れたらと思っている。（京都府・R施設）
- 3、国家試験の過去問題を中心に施設内で指導をしている。点数は少しずつ取れるようになってきていると思うが、心配なのは「読解力」が身につけていないことと、「専門用語」の習得と理解ができないことだ。（愛媛県・H施設）

【国家試験受験能力到達度】チェック

当社では、外国人介護士候補者のために【言語能力】を段階的にチェックする（A～Dレベル）と、【国家試験受験能力】を観る（E・Fレベル）を実施しています。

※ 受験者には試験結果に基づき、考察表（言語能力到達度）にあわせて、学習アドバイスをしていますので、現在依頼している日本語教師任せにせず、施設担当者が、客観的な「考察表評価」に基づいて現状を把握することが、日語能力を伸ばすために重要です。

※ そのためには、**3ヶ月単位で日本語力をチェックすることが大切です！**

常に、貴施設で働く外国人の日本語能力の変化を、客観的な数値で評価できる定期テストを重要視しましょう。その理由は、**国家試験受験能力は、試験問題が理解できる能力（読解力）をいい、合格能力は試験問題に対し、正しく答えられる能力（知識力）をいいます。**

※ 今後、貴施設の安定した運営のためにも、ぜひ定期テストを受けることをおすすめします。すでに、多くの施設ではその効果がでて安心したという声も増えてきています。

二年間（約三か月毎）

レベルF

レベルE

レベルD

レベルC

レベルB

レベルA

初回レベルチェック

職域言語能力

生活言語能力

基礎言語能力

高校3年～専門学校1年レベル → 国家試験受験レベル

高校2年レベル

中学3年レベル

中学2年レベル

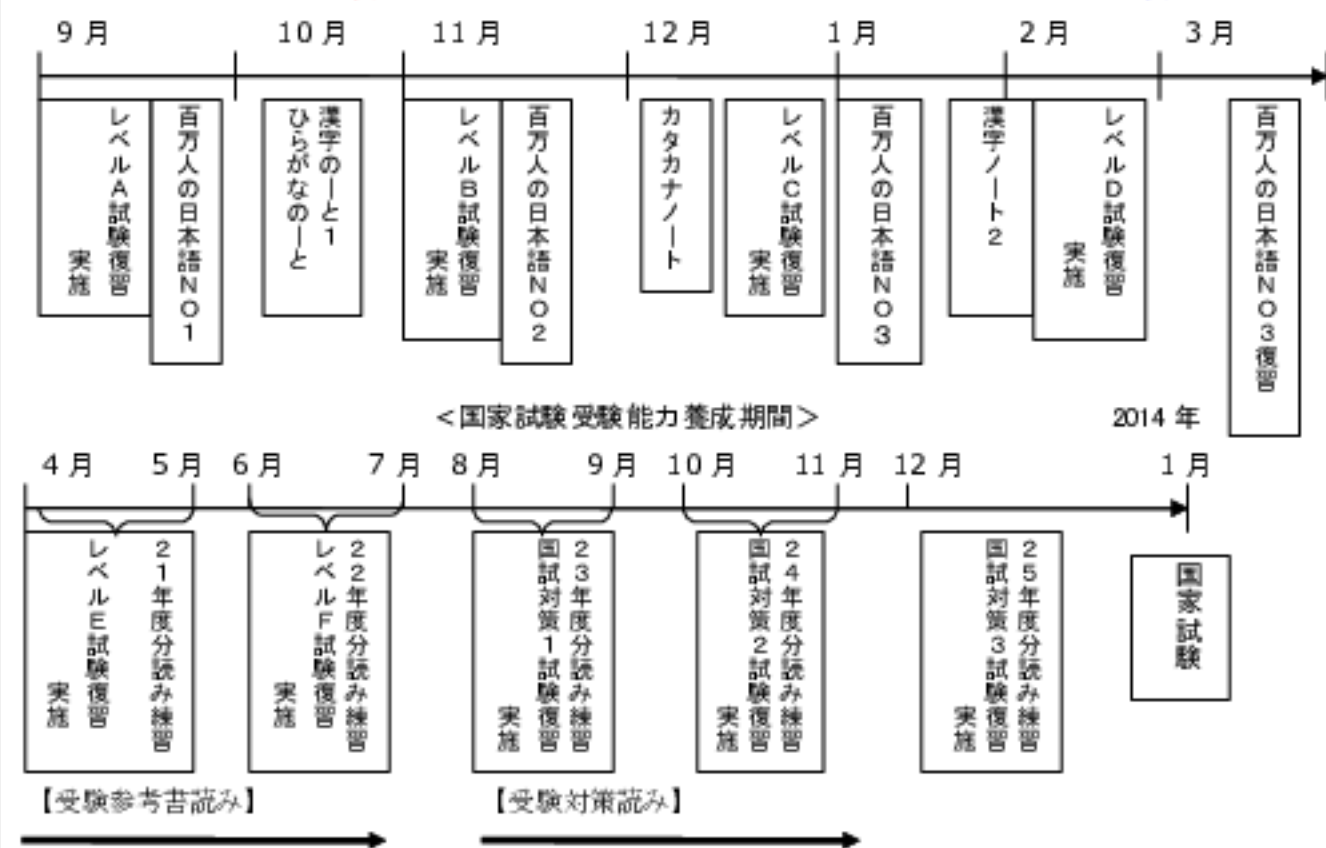
小学校高学年レベル

小学校低学年レベル

2014 年、国家試験合格のために！！【 学習計画概要例 】

2012 年 <基礎言語能力養成期間>

2013 年 <生活言語能力養成期間>



《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【 基礎言語能力レベル I 】

- 【 教材の特徴 】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【 テキスト「100万人の日本語 No.1」 】

日本語の基礎知識を多様な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を訳して、「規則性とその用法」が学べ、自在に会話力がつくような内容になっています。

- ※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



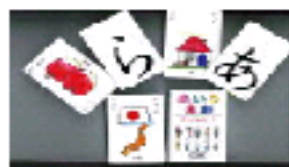
【 漢字のひと(1) 】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。
赤漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。
また、中国人学習者にも同様です。



【 ひらがなのひと 】

□
ひらがな文の習得に最適な教材です。字や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「音読と声え」の仕方・読み・書きの発音方法が学べます。
身近な事例を使って学べるので、社会生活に必要な語彙も同時に学べます。



【 ひらがなひと 】

□
本書にはひらがなとカタカナが一文ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。
イラストには「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自然で使えるようになっています。
基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【 基礎言語能力レベル II 】



【 テキスト「100万人の日本語 No.2」 】

□
会社の本社、支店など場面に於ける会話文を中心に構成され、社会生活に必要な語彙を習得しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。
さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え」を得意言葉で表現できる能力が身につくように作られています。各ページに、日本語のあらゆる規則性と用法が学べます。

- ※ 習得漢字数 420字～540字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【 漢字のひと(2) 】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文章に対する読解力も、同時に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の材料もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解ができる内容となっています。
赤漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解できる特徴があります。



【 カタカナのひと 】

□
カタカナ語を使った場面を多様なイラストが各ページにあります。
このノートは、読み文と会話文が繰り返し読まれています。
場面を紹介する文は、外国語の理解と、その音読練習がしやすくなるようになっています。
読解力と文章の応用力が養えるようになっています。

【 レベルIとレベルIIの違い 】

レベルIは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。
レベルIIは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。

【 生活言語能力レベル III 】



【 テキスト「100万人の日本語 No.3」 】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、実際の職場環境の日本語的な生活と仕事を演じて、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。
そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

- ※ 習得漢字数 350字～1,000字
※ 習得語彙数 1,710語～3,000語

【 レベルIIIの特徴 】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。 語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベル I	「ひらがなひと」	¥ 1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥ 2,550
	「ひらがなのひと」	¥ 1,800
	「漢字のひと 1」	¥ 1,360
レベル II	「100万人の日本語No.2」	¥ 2,550
	「カタカナノート」	¥ 1,360
	「漢字のひと 2」	¥ 1,360
レベル III	「100万人の日本語No.3」	¥ 3,000
※ 送料は別途		

【国家試験受験能力到達度】チェック申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>			
施設名：		ご担当者名：	
所在地： 〒			
電話：		FAX：	
メールアドレス：			
受験者名：		国名：	受験人数： 名
<単発受験> ※ ご希望の受験形態に□「レ点」を記入願います。下記の料金は受験者1名あたりの金額です。			
□ 各受験段階で1回あたり @9,450 円×		名	合計金額 円
<継続受験>			
□ 受験段階初回からの場合 @7,350×10 回=73,500 円×		名	合計金額 円
□ 受験段階Aからの場合 @7,350×9 回=66,150 円×		名	合計金額 円
□ 受験段階Bからの場合 @7,350×8 回=58,800 円×		名	合計金額 円
※ この試験は国家試験受験能力を養うために実施しますので、約三年間分の受験料金となります。			

【日本語教育教材】申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>			
施設名：		ご担当者名：	
所在地： 〒			
電話：		FAX：	
メールアドレス：			
※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。			
100 万人の日本語No.1（ ） ひらがなか一ど（ ） 漢字の一と1（ ）			
100 万人の日本語No.2（ ） ひらがなの一と（ ） 漢字の一と2（ ）			
100 万人の日本語No.3（ ） カタカナノート（ ）			
※ お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。			
ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田 3-2-13 石田ビル303			
電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp			

より良い教育効果を上げるために！！

- ★ ★ この教材は【日本語を日本語で学ぶ】ことができるもので、学習者が自宅学習を積極的にでき、決められた学習時間以外でも、「独学で学べること」が最大の特徴です。
- 自信を持って教材を推薦致します。
- ご購入頂いた皆様方には、具体的な教材の「指導書」を同封しておりますので、指導経験が無い方でも、安心してお使い頂けます。
- 「指導書」に従い教育することで、学習者の反応が見違えるように変化しますので、教育効果が高まることは間違いありません。
- ご質問等がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

